

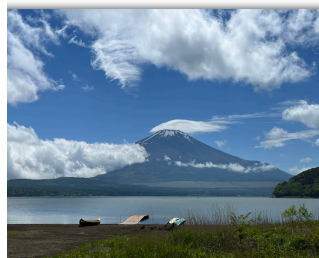
YMCAキャナルコート保育園 ～すくわくプログラム～ NO.1

2025
5歳児クラス

NEWS

とうきょうすくわくプログラムってなあに？

幼稚園や保育所において、子どもたちが好奇心や興味を持って、わくわくしながら遊び、学べるよう応援する取り組みです。取り組みを通じて、子どもたちの自己肯定感や思いやりといった豊かな心の育ちをサポートしていきます。



安全安心な環境のもと、子どもたちが興味・関心を深められそうなテーマを園で設定し、好奇心を持つきっかけを増やしたり、考えを広げ、深めたりする取り組みを行います。

すべての乳幼児の
伸びる・育つ
×
好奇心・探究心
を応援する幼保共通の
プログラム

山中湖キャンプの活動

- ・豊かな自然の中で五感を使って、好奇心や探求心を育む
- ・共に生活する中で仲間の存在に気づき、互いを認め合う



山中湖キャンプでは自然豊かな中での散歩で探求を深めました。東京YMCA山中湖センターの施設を知るスタンプラリーではフィールド、宿泊キャビン、キャンプファイヤー場など安全に過ごせるよう探索をしました。木々の間にキノコを見つけたり、園周辺では見たことのない虫を見つけたり、木の枝や木の実を集めて調べたり、広い原っぱで思う存分鬼ごっこをしてからだを動かしたり、湖畔で気温の変化を感じたり、カヌーにのる際に命の大切さ、生きるための知恵を知りました。

【テーマ】 自然とのかかわり

子どもたちが園庭の自然で遊ぶことが好きなことから、自然との関わりをより深めていくため、テーマを設定しました。



芋ほり遠足では、畑の広さや土に触れ「つちがかたい」、 「つちがちゃいろい」、 「むしがいる」など、それぞれが自然とのふれあいから感じたことを言葉にしていました。一人では掘り起こせない程の大きな芋が顔をのぞかせると、声を上げ、周りの友達と一緒に掘り起こす姿もありました。「自然を守るには・・・」と考え、秋には地域の方と一緒にクリーンウォーク活動として辰巳公園の清掃を行いました。

自然とのかかわり

「自然ってなんだろう？」という問いをもとに、思い思いの場所で園庭にある自然を探しました。「なぜ花が紫の色になるのか。ピンクの花があるのはなぜか」と、「あじさい」の花について図鑑を使って調べてみたり。散歩先の自然物やキャンプで集めた木々や木の実を使った製作を行い“ミニギャラリー”を作って披露したり。様々な自然と出会いふれあう中で探求をしました。



活動を通して・遊びを通した子どもの姿

日常の保育の中で園庭や散歩先などの都会にある身近な自然に触れる機会がありますが、じっくりと触れる機会はありませんでした。山中湖キャンプの活動を通じて、子どもたちがそれぞれのペースで感じるままに土・水・風・光などの自然に触れることができました。保育園での日常生活を土台に一泊二日の非日常を体験し、子どもたちがさらに探索活動を深めていると感じました。一年を通して好奇心を持つきっかけを増やしたり子どもたち自身が身の回りにある自然に気づき触れ、友だちと一緒に考えを広げて、思い思いの場所で自然を取り入れた遊びを展開していました。

YMCAチャンネルコート保育園 ～すくわくプログラム～ NO.2

2025

5歳児クラス

4歳児クラス

3歳児クラス

NEWS

とうきょうすくわくプログラムってなあに？

幼稚園や保育所において、子どもたちが好奇心や興味を持って、わくわくしながら遊び、学べるよう応援する取り組みです。取り組みを通じて、子どもたちの自己肯定感や思いやりといった豊かな心の育ちをサポートしていきます。



安全安心な環境のもと、子どもたちが興味・関心を深められそうなテーマを園で設定し、好奇心を持つきっかけを増やしたり、考えを広げ、深めたりする取り組みを行います。

すべての乳幼児の
伸びる・育つ
×
好奇心・探究心
を応援する幼保共通の
プログラム

運動プログラムのねらい

- ・からだを十分に動かす楽しさや心地よさを味わう。
- ・保育者や友だちと一緒に身体を動かす活動に意欲的に参加する。
- ・バランスの取れた動きを身に付ける。

～年齢に合わせた活動～

【3歳児】

- ①一人でする動き
- ②友だちと一緒に動く

【4歳児】

- ①話を聞こうとする力を身に着ける
- ②協力する中で達成感を味わう



【5歳児】

- ①ルールのが少し複雑になる遊び

【テーマ】 自分のからだを動かして遊んでみよう

- ・発達段階に応じた運動機会を継続的に確保し、子どもたち一人ひとりの成長を支えていくことをねらい、職員の学びの場として講師を招いて月1回の「運動プログラム」をに参加して、テーマを設定しました。



からだを動かす

子どもたちの運動量が減り運動できる環境が減っている中、積極的に自分の体を動かすことを推進していきたいと考えています。いま「自分がどんな動きができるのか」「挑戦してみたらもっと向上することは何か」など、子どもたち自身が試したり挑戦したりする活動を進めていきたいと考えています。



活動を通して・遊びを通した子どもの姿

基礎的な運動能力が身に付き、体力も向上して以前に比べて自分で進んでやろうとする姿が多く見られるようになってきました。できた喜びを保育者とだけ共有する姿が多かったですが、友だちと協力することに夢中になり、できた時の達成感を子ども同士で共有し合う姿がみられました。子どもたちが期待をもち、保育者の話を聞こうとする姿が増えました。活動に集中して参加する姿から、持久力、筋力、持続力が育まれていると感じています。怪我や転倒が少しずつ減り、大きな怪我が少なくなったのは、調整力（巧緻性、協応動作など）がついてきたからだと考えられます。また、ルールのある遊びを通して決まりや、約束事を理解し体操の場面だけでなく生活の中でも自分たちでルールや決まりを考えて遊びに取り入れる姿が増え、日常の保育の中でも身体を動かすことにつながっています。